

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第2集

市内遺跡発掘調査報告書1990

1991. 3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第2集

市内遺跡発掘調査報告書1990

1991. 3

佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成2年度国庫補助事業、市内遺跡発掘調査事業にともなう埋蔵文化財の調査報告書である。

2 事務局及び調査団の構成

(事務局) 佐久市教育委員会埋蔵文化財課・佐久埋蔵文化財調査センター

教 育 長 大井季夫 教 育 次 長 小池八郎

開発公社事務局長 須江吉介 課 長 兼 所 長 相沢幸男

管 理 係 桜井敦子(係長)・東城公人・田島清巳(嘱託)・関山美咲(臨職)

埋 蔵 文 化 財 係 相沢幸男(係長兼務)・高村博文・林幸彦・三石宗一・須藤隆司・
小山岳夫・小林真寿・羽毛田卓也・粟川泰弘・竹原学・助川朋広

(調査団)

団 長 黒岩忠男(佐久考古学会副会長)

副 団 長 白倉盛男(佐久考古学会副会長)・藤沢平治(佐久市文化財審議委員)

調査担当者 高村博文・林幸彦・三石宗一・小山岳夫・小林真寿・羽毛田卓也・
粟川泰弘・竹原学・助川朋広

調 査 員 堺 益子

調査補助員 香山優子・小林よしみ・橋詰勝子・橋詰けさよ・細萱ミスズ

協 力 者 長岡喜代人

- 3 本書の編集は高村が行い、執筆は各遺跡の担当者が担当し、報告書作成作業の図面作成等を、香山優子・長岡喜代人が行った。
- 4 本書及び関係資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

目 次

1	市内遺跡調査概況	1
2	試掘調査結果報告	5
	(1)紫久保屋敷遺跡1…5 (2)石島城跡…8 (3)長土呂遺跡群2…11 (4)立石遺跡…14 (5)野馬久保遺跡…17 (6)上野千寺遺跡…20	
3	支倉い調査結果報告	22
	(1)大沢屋敷遺跡1…22 (2)水石平遺跡群1…24 (3)岩村田遺跡群1…26 (4)巻屋遺跡群1…27 (5)巻屋前遺跡群2…28 (6)下松原石遺跡1…30 (7)西五津遺跡群1…31 (8)白山遺跡群1…33 (9)紫久保屋敷遺跡群2…35 (10)宇の原遺跡群1…37 (11)芝宮遺跡群2…39 (12)高坂遺跡1…41 (13)一本陣遺跡群1…43 (14)寺田遺跡群1…45 (15)沢井城跡1…47	

1 市内遺跡調査概要

今年度から、国庫補助金を受けて、個人及び民間の開発に対する埋蔵文化財の保護処置を実施した。

今年度の目標としては、佐久市内の周知の遺跡内における開発に対し、文化財保護法第57条の2第1項の提出と、専門職員による現地の確認を実施し、埋蔵文化財の保護に当たることを主眼とした。

個人・民間の開発に対する情報源は、農業委員会に提出される農地転用の申請を利用した。平成2年7月から12月までの農地転用による申請者のうち、埋蔵文化財の保護処置の該当者は計65件で、平成3年1月31日現在、文化財保護法第57条の2第1項の提出は37件の約57%である。調査対象面積は43,602.72㎡で1件当りの平均調査対象面積は670.81㎡となる。月平均の農地転用申請者の埋蔵文化財保護処置を必要とする該当者件数は約10.8件である。

試掘調査を実施した遺跡は、猿久保屋敷遺跡1・石並城跡・長土呂遺跡群2・野馬久保遺跡(以上、国庫補助金で実施)の4遺跡で、その他、農地転用以外で立石遺跡(国庫補助金で実施)と上福王寺遺跡を加えて6遺跡、21,600㎡であり、詳細は後記してある。立会い調査を実施した遺跡は、計15遺跡にのぼり、調査対象面積計4,291.37㎡で1遺跡当りの平均は286.09㎡である。

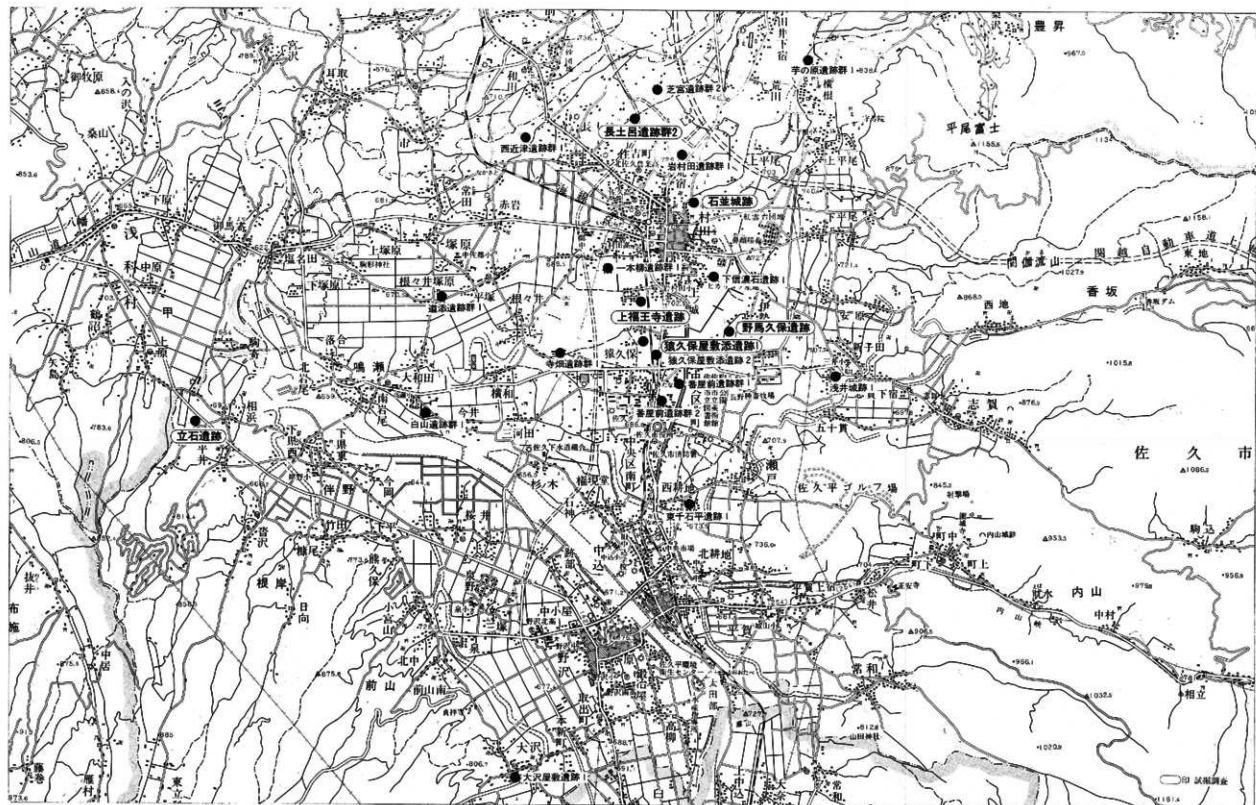
調査を実施した遺跡の分布を参照すると、千曲川右岸、佐久市北部地区に集中しており、岩村田・中込原台地の開発は、今年度実施した発掘調査遺跡と考え併せて、急激に進んでいることが伺える。

今年度から国庫補助金を利用できたことから、佐久市内の遺跡内で実施される、個人住宅を含めた開発に対し、調査が実施されたことは、いままで未調査であった遺跡の状況及び地層状態の情報が得られることと、より広範囲な市民等の遺跡に対する知識が増大し埋蔵文化財保護に対する関心を集めたことは、大きな成果であった。

今後、関越自動車道の開通、新幹線の開通等により益々開発が増大する傾向にあり、埋蔵文化財行政の体制及び保護施策の充実等に、より一層の努力が必要となろう。

平成2年農業委員会関係道路一覧表

No.	道路名	原 因 者	所在地	原 因	関係面積	延路	保通距離	調査	調査期間	担当区	
1	岡田道線群1	神澤典生	長土宮	増地	113.04	○	57	○	○	○	○
2	竹村道線群1	川志雄男	竹村田	菅上居集	158.40	○	○	○	○	○	○
3	香取道線群1	長原清太郎	福久保	赤岡住宅	591.00	○	○	○	○	○	○
4	川取道線群1	中保原貞	新子田	個人住宅	96.89	○	○	○	○	○	○
5	香取道線群2	柳沢貞	中込	共同住宅	491.90	○	○	○	○	○	○
6	渡部道線群1	山中肇	瀬戸	共同住宅	270.37	○	○	○	○	○	○
7	長土道線群1	下業誠二	長土宮	個人住宅	68.65	○	○	○	○	○	○
8	宮ノ後道線群1	有藤健一	新子田	個人住宅	39.25	○	○	○	○	○	○
9	香取道線群3	ホヰルー農業	福久保	駐車場	1,200.00	○	○	○	○	○	○
10	能取道線群1	前山吉夫	新子田	貸し住宅	82.50	○	○	○	○	○	○
11	大沢原道線群1	木内徹	大沢	個人住宅	74.52	○	○	○	○	○	○
12	野の原道線群1	眞原寿子	瀬戸	貸し住宅	55.00	○	○	○	○	○	○
13	少畑道線群1	森泉辰男	根々井	個人住宅	79.33	○	○	○	○	○	○
14	東下石平道線群1	上原今朝美	瀬戸	個人住宅	54.11	○	○	○	○	○	○
15	芝岡道線群1	柳ヤオトク	小原清	青庫	225.00	○	○	○	○	○	○
16	一本柳道線群1	根谷昭男	新子田	個人住宅	70.38	○	○	○	○	○	○
17	宮田道線群1	柳石井尚全	竹村田	宅地造成	1,174.00	○	○	○	○	○	○
18	宮の上道線群1	柳タイヨウエシジニア	根々井	駐車場	165.00	○	○	○	○	○	○
19	山田道線群1	柳田ペンディング	今井	小規模集積	275.40	○	○	○	○	○	○
20	鳴石道線群1	沢沢光昭	根々井	個人住宅	95.29	○	○	○	○	○	○
21	神保道線群1	柳石井尚全	根々井	宅地造成	495.72	○	○	○	○	○	○
22	下貫道線群1	柳山田良	平沢	宅地造成	726.00	○	○	○	○	○	○
23	平賀中加道線群1	松原芳久	平賀	個人住宅	52.99	○	○	○	○	○	○
24	新石道線群1	徳山節土木	長土宮	通入路	448.00	○	○	○	○	○	○
25	長上戸道線群2	徳上御製作所	長土宮	フェスコート	700.00	○	○	○	○	○	○
26	若菜道線群1	柳徳吉雄	竹村田	宅地造成	976.00	○	○	○	○	○	○
27	福久保宮道線群1	柳元和雄	福久保	宅地造成	2,948.00	○	○	○	○	○	○
28	渡部道線群1	神野研大	福原	個人住宅	48.13	○	○	○	○	○	○
29	西宮道線群1	川中重和	長土宮	個人住宅	61.43	○	○	○	○	○	○
30	岡田道線群2	カワベシヅユエシニア	長土宮	工場跡	198.00	○	○	○	○	○	○
31	東久保宮道線群1	柳昭吉雄	福久保	資材置き場	1,048.00	○	○	○	○	○	○
32	幸の原道線群1	渡辺正樹	根々井	個人住宅	117.59	○	○	○	○	○	○
33	渡部道線群2	森島茂	上平塚	個人住宅	59.62	○	○	○	○	○	○
34	雲田原宮道線群1	高橋公則	厚原	工場併用住宅	145.74	○	○	○	○	○	○
35	西ノ下道線群1	橋本正光	厚原	共同住宅	72.87	○	○	○	○	○	○
36	尾花道線群1	竹内正治	瀬原	貸し倉庫	176.00	○	○	○	○	○	○
37	庄道線群1	岸武功雄	野沢	個人住宅	68.31	○	○	○	○	○	○
38	新町道線群1	菊島良一	中込	駐車場	147.00	○	○	○	○	○	○
39	深淵道線群2	泉原重明	瀬戸	個人住宅	85.00	○	○	○	○	○	○
40	平賀中位道線群2	日原誠彦	平賀	住宅宅	53.00	○	○	○	○	○	○
41	大間道線群1	岩崎勝則	内山	個人住宅	90.92	○	○	○	○	○	○
42	藤取道線群1	藤沢清	根根	共同住宅	236.30	○	○	○	○	○	○
43	高岡町道線群1	佐久山直雄	新子田	加工施設等	628.86	○	○	○	○	○	○
44	芝宮道線群2	森島茂	長土宮	個人住宅	74.97	○	○	○	○	○	○
45	東毛取道線群1	木下眞	岩村田	加工場等	3,204.00	○	○	○	○	○	○
46	藤取道線群2	女志本林業	常曲	加工場等	18,236.00	○	○	○	○	○	○
47	尻井道線群1	中野基	新子田	資材置き場等	62.21	○	○	○	○	○	○
48	大間道線群2	藤原和彦	内山	個人住宅	100.65	○	○	○	○	○	○
49	東久保道線群2	荒瀬昭亮	福久保	宅地造成	350.00	○	○	○	○	○	○
50	雲田原道線群2	竹野陽子	厚原	共同住宅等	481.56	○	○	○	○	○	○
51	常川原道線群1	大田田剛敏	厚原	毛織造成	58.29	○	○	○	○	○	○
52	尾花道線群2	渡部正弘	安原	個人住宅	96.81	○	○	○	○	○	○
53	野馬久保道線群1	女志本林業	新子田	宅地造成	3,931.00	○	○	○	○	○	○
54	庄道線群1	金井とくよ	野沢	個人住宅	134.35	○	○	○	○	○	○
55	中道線群1	日下清彦	前山	事務所兼倉庫	540.00	○	○	○	○	○	○
56	中取道線群1	大上取宗大	中込	個人住宅	91.99	○	○	○	○	○	○
57	中込道線群1	土屋千代四郎	瀬戸	個人住宅	67.87	○	○	○	○	○	○
58	新町道線群2	柳沢克夫	平賀	個人住宅	71.77	○	○	○	○	○	○
59	小指子道線群2	竹内蔵一、武人	取田	個人住宅	210.80	○	○	○	○	○	○
60	藤取道線群2	高橋今朝吾	小田井	事務所等	241.93	○	○	○	○	○	○
61	長上戸道線群3	柳武成尚全	長土宮	資材置き場	1,294.00	○	○	○	○	○	○
62	野沢道線群2	横川伸雄	三所田	個人住宅	72.08	○	○	○	○	○	○
63	新町道線群1	上田啓用令東	原	駐車場	140.00	○	○	○	○	○	○
64	中取道線群3	高野俊昭	中込	貸し倉庫	90.00	○	○	○	○	○	○
65	中取道線群4	宮沢俊	中込	個人住宅	139.27	○	○	○	○	○	○
					計	43,602.72					
					平均	670.81					



市内道路調査位置図 (1:50,000)

2 試掘調査結果報告

(1) 猿久保屋敷添遺跡 1

所在地 佐久市大字猿久保屋敷
添448外
調査原因者 光和建设株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成2年11月5・6日
面積 2,948㎡
調査担当者 高村博文



猿久保屋敷添遺跡 1 位置図 (1 : 10,000)

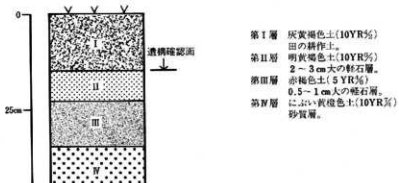
経過と立地

猿久保屋敷添遺跡は、佐久市大字猿久保に所在し、標高687～688mを測る。立地的には、湯川により形成されたと考えられる中込原台地を大きくめぐり込む形の淀みの第2河岸段丘上に位置している。遺跡の内容については、佐久市遺跡詳細分布調査報告書を参照すると、弥生～平安時代の遺構の存在が予想される。

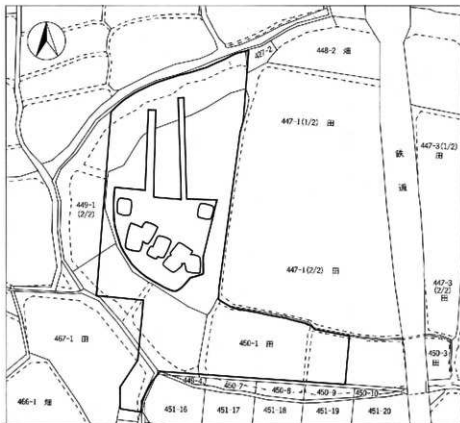
今回、光和建设株式会社が行う宅地造成事業にともない、試掘調査を実施して遺跡の確認をする必要が生じた。

調査結果

試掘調査の結果、表土1層約30cm下にローム層が検出され、ローム層を切り込んで住居址と思われる落込みが9棟確認された。遺物は、土師器小片が数点発見され古墳時代から平安時代の集落と考えられる。



猿久保屋敷遺跡1基本土層模式図



猿久保屋敷遺跡1試掘調査全体図(1:1,000)

宅地造成は、50cm以上の埋め土で実施することが確認されたため、遺構の破壊はなく保存されることとなった。

以上の調査結果から、この地域は未調査であったが、小海線沿線の中込原台地の一段低い湯川左岸第2段丘上に確実に古代の集落が検出されたことは大きな成果であった。



遺跡近景（南方より）



試掘調査全景（南東より）

(2) 石並城跡

所在地 佐久市大字岩村田字石並
3503外
調査原因者 森泉建設工業株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成2年12月13・14日
面積 976㎡
調査担当者 高村博文



石並城跡位置図 (1:10,000)

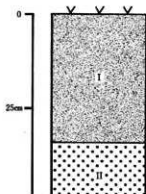
経過と立地

石並城跡は佐久市大字岩村田地籍に所在し、標高716～726mを測る。城跡は蛇行しながら南流する湯川の西岸の第2段丘上に北から石並城跡・王城跡・黒岩城跡とほぼ直線的に南北に連なって大井城跡を形成している。大井城跡は佐久市有数の城跡であり、王城跡・黒岩城跡は県の史跡に指定されている。当教育委員会は、この石並城跡をなんとか現状保存することを考え、一度は宅地造成の計画を長野県文化課と共に協議し開発を思い止まることができたが、再度、森泉建設工業株式会社により開発の計画が持ち上がった。

今回、森泉建設工業株式会社が計画している宅地造成地区は、石並城跡の外郭に当たるものと考えられる。また、当該地は岩村田遺跡群内に含まれていることから弥生時代から平安時代の遺構の存在している可能性もたかく、国庫補助金で全面試掘を実施し、遺構の存在が判明した場合は改めて保護処置を再協議することとなる。

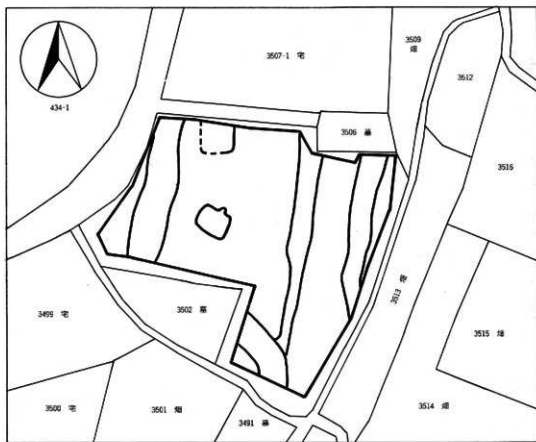
調査結果

宅地造成地域は、南北に伸びる堀の隣接した西側976㎡にわたり、深さ37cm内外の表土（I層）を取り除くとローム層（II層）が検出された。調査範囲内からは、竪穴住居2棟、南北に伸びる堀2条、東から西へ北方に湾曲する堀1条、南北に伸びる溝1基（試掘調査全体図参照）



第I層 暗褐色土(10YR%) 粘性なし。耕作土。
 第II層 黄褐色土(10YR%) ローム層。

石並城跡基本土層模式図



石並城跡試掘調査全体図 (1:500)

が検出され、石並城跡に関連した遺構及びそれ以前の集落址の存在が確認された。

以上のことから、森泉建設工業株式会社と再度保護協議を実施し、記録保存することが決定した。



遺跡近景（南東より）



試掘調査全景（南東より）

(3) 長土呂遺跡群 2

所在地 佐久市大字長土呂字上大
林168-11
調査原因者 株式会社吉田製作所
開発事業名 テニスコート造成
調査期間 平成2年12月17日
面積 700㎡
調査担当者 小林真寿



長土呂遺跡群2位置図(1:10,000)

経過と立地

長土呂遺跡群は、佐久市大字長土呂地籍に所在し、浅間山に源を発する濁川の浸蝕による田切り地形南側の標高720~760mの段丘上に展開する大遺跡群である。

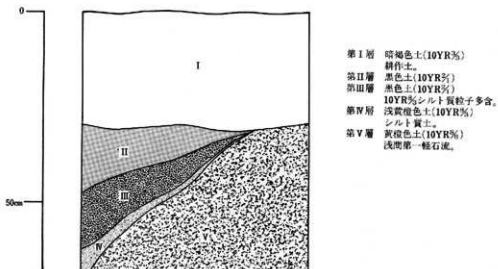
今回、当遺跡群内の上大林遺跡の一部分を埋め立てて、テニスコートを造成する計画が吉田製作所より提出されたため、当該地も埋蔵文化財の保護・保存を図るため試掘調査を実施した。

なお、調査地は昭和63年度に国道141号線改良事業にともない佐久市教育委員会が調査を実施した上大林遺跡に隣接する。

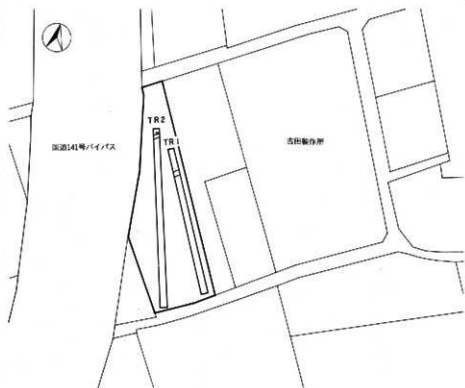
調査結果

当該地は北西から南東に向かって緩やかに傾斜しており、南東側にはシルト質の黒色土がローム層と表土(耕作土)の間層として堆積しており、トレンチの東南端では地表面から1m下げてローム層に達せず、低地であったものと考えられる。

遺構は、溝址2条とピット1基が検出されたものの住居址は存在しなかった。遺物は、土師器の小片が1片出土したのみである。なお、テニスコート造成は盛り土により行うもので、地下の遺構に影響を及ぼさないが、試掘調査を実施して、遺構の存在の有無を確認した。



長土呂遺跡群 2 基本土層模式図



長土呂遺跡群 2 試掘トレンチ設定図 (1 : 1,000)



道跡近景 (北方より)



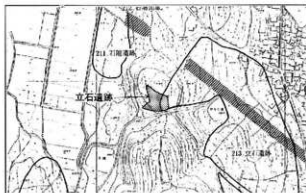
TR1全景 (北方より)



TR2全景 (北方より)

(4) 立石遺跡

所在地 佐久市大字根岸字荻原
4103-1外
調査原因者 荻原地区土地整備組合
開発事業名 荻原地区土地整備事業
調査期間 平成2年12月18日
面積 2,290㎡
調査担当者 竹原学



立石遺跡位置図 (1:10,000)

経過と立地

立石遺跡は佐久市大字根岸地籍に所在し、標高676～705mを測る。立地的には蓼科山西北麓の丘陵末端部付近、佐久盆地を見おろす位置にある。

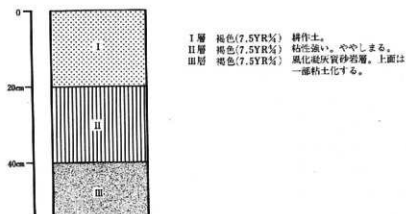
遺跡の内容については、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によれば縄文時代の遺物が採集されている。また近接して石附窯址群をはじめとする古代生産遺跡が分布しており、注意される。

今回、荻原地区土地整備組合により遺跡地を含めた一帯21,000㎡の農地整備が計画された。このうち2,290㎡が今年度事業の対象となり、試掘調査を実施して遺跡の確認をする必要が生じ、調査の結果、遺構が確認された場合は再協議することとなった。

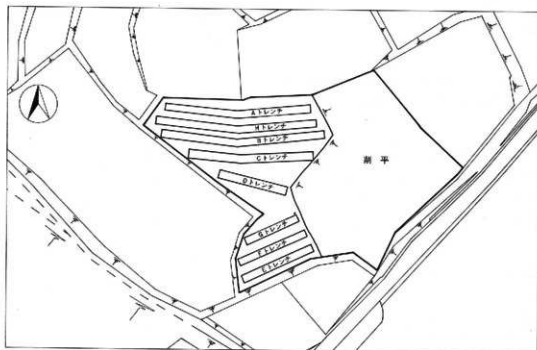
調査結果

試掘調査の結果、地表下約40cmで風化岩盤（相浜層）に達し、この面で遺構確認を行った。しかし、一点、黒曜石片が出土した他はなんら遺構・遺物が確認されず、当該地は遺跡の範囲から外れるものと解釈された。

しかしながら、先に触れたように周辺において生産関係の遺跡の存在が予想され、今後注意すべき遺跡と言えよう。



立石遺跡基本土層模式図



立石遺跡試掘トレンチ設定図 (1 : 1,000)



遺跡全景（東南より）



遺跡全景（東南より）



遺跡全景（南方より）



Aトレンチ全景（南東より）



Cトレンチ全景（南方より）

蛇塚B遺跡群

(5) 野馬久保遺跡

所在地 佐久市大字新子田字野馬
久保1928-2

調査原因者 与志本林業株式会社

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成2年12月25・26日

面積 2,931㎡

調査担当者 羽毛田卓也



野馬久保遺跡位置図 (1:10,000)

経過と立地

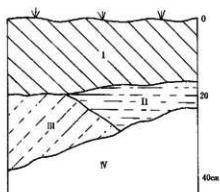
蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡は、佐久市大字新子田地籍に所在し、昭和54・58年度に調査した蛇塚B遺跡に隣接する。本遺跡は標高705～706mを測り、東内池より南下西進する田切りと湯川段丘に挟まれた帯状台地の南傾斜する微高地上に位置する。また、西側には南北に走る低地が存在し、その低地端の微高地で、佐久市遺跡詳細分布調査報告書を参照すると、平安時代の集落址の存在が予想される。

今回、与志本林業が行う宅地造成にともない、試掘調査を実施し、遺構の存在が確認された場合は、保護処置について再協議することとなった。

調査結果

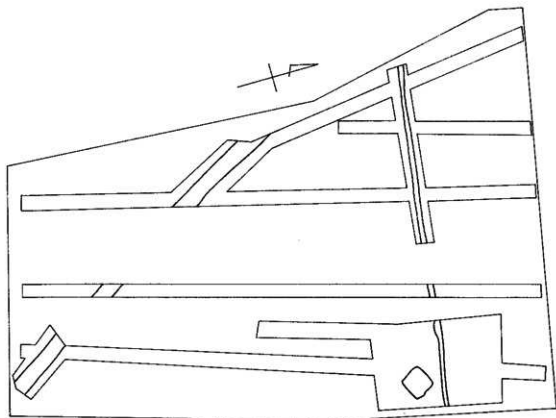
試掘調査の結果、ローム層上面において、平安時代の住居址1棟と時代不明の溝状遺構が2条確認された。遺物は遺構確認面より、縄文時代中期の浅鉢片、平安時代の甕・坏・灰釉陶器片等が出土した。このことから、蛇塚B遺跡の調査によって確認された平安時代の集落が、本遺跡まで広がっており、予想以上の大集落であったことがうかがえる。

以上の調査結果から、与志本林業と再協議を実施し、記録保存することとなった。



- 第I層 耕作土。
 第II層 褐色土層(10YR5)
 ローム粒子・ノミス中粒少量含む。
 第III層 黒褐色土層(10YR2)
 ローム粒子微量含む。
 第IV層 明黄褐色土層(10YR7) ローム。

野馬久保遺跡基本土層模式図



野馬久保遺跡試掘調査全体図(1:500)



遺跡全景（南方より）



西側トレンチ全景



中央トレンチ全景



東側トレンチ全景

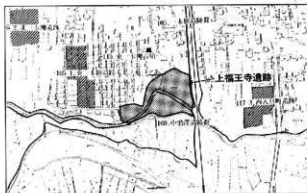


北側トレンチ全景

一本柳遺跡群

(6) 上福王寺遺跡

所在地 佐久市大字岩村田字上福
王寺2208外
調査原因者 小林建設工業株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成2年4月16日
面積 11,755㎡
調査担当者 林 幸彦



上福王寺遺跡位置図 (1:10,000)

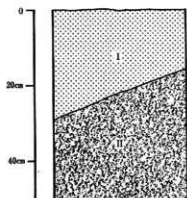
経過と立地

上福王寺遺跡は、湯川に臨んだ台地上にあり標高691～700mを測る。付近には、上の城遺跡・北一本柳遺跡・東一本柳遺跡・東一本柳古墳などがある。本遺跡からは、弥生・古墳・奈良・平安時代の遺物が出土している。また、かつては古墳も数基存在していたといわれており、東一本柳古墳共ども古墳群を形成していたと思われる。さらに、付近には福王寺と呼ばれる寺が存在していたといわれている。今回、小林建設工業が行う宅地造成にともない、試掘調査を実施して遺構の確認をする必要が生じた。

調査結果

対象地は、湯川に面した斜面であるため、住居址等の遺構の存在の可能性は薄い。試掘調査の結果、表土の30cm下に黄褐色ローム層が確認された。表土は、斜面の下位ほど厚い。この表土層から、弥生時代後期・古墳時代の土器片が出土した。

住居址・土坑などの遺構は確認されなかった。ただ、幅3m程の溝が検出されたが、この性格は不明である。当初、古墳の残存遺構が予想されたが、今回の調査では確認されなかった。対象地の最下部は、湯川の河岸段丘に接する地点であるが、腐食土と思われる黒褐色土の堆積が厚くみられた。



第1層 耕作土。
第II層 明黄褐色土(10YR%) ローム。

上福王寺遺跡基本土層模式図



上福王寺遺跡試掘トレンチ設定図 (1 : 1,500)

3 立会い調査結果報告

(1) 大沢屋敷遺跡1

所在地 佐久市大字大沢宇屋敷
997
調査原因者 木内徹
開発事業名 個人住宅建設
調査期間 平成2年8月27日
面積 74.52㎡ (362㎡)
調査担当者 高村博文



大沢屋敷遺跡1位置図 (1:10,000)

経過と立地

大沢屋敷遺跡1は、佐久市大字大沢地籍に所在し、標高691～707mを測る。立地的には西山から東方へ流れる大沢川が北側に存在し、遺跡は西から東方へなだらかな傾斜をもつ台地である。

遺跡の内容については、佐久市遺跡詳細分布調査報告書を参照すると縄文時代と古墳時代の遺構の存在が予想される。

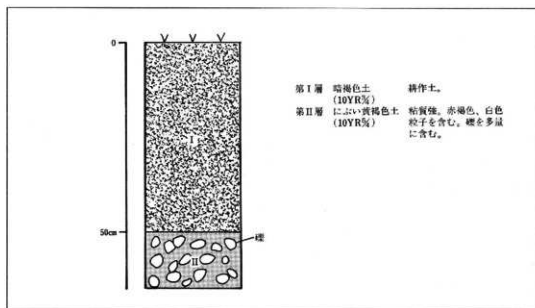
今回、木内徹氏が行う住宅建設により立会い調査を実施することとなった。

調査結果

基礎部分の掘削は、幅約100cm、深さ65cm内外で行われた。確認の結果、西側部分において約50cmの耕作土の下からII層であるにふい黄褐色土層が検出され、遺構が確認されるとすれば、この面の可能性が高い。この層には径3cm内外の礫が多量にあり、あるいは大沢川の氾濫により形成されたものかも知れない。東側部分の掘削は、地形が低くなっていることから、II層まで達し

なかった。

大沢屋敷遺跡内での調査は、初めてであったが遺構・遺物は検出されなかった。



大沢屋敷遺跡1基本土層模式図



遺跡近景 (東方より)



掘削近景 (西方より)

(2) 東千石平遺跡群 1

所在地 佐久市大字瀬戸宇東千石
平1558-12
調査原因者 土屋今朝美
開発事業名 個人住宅建設
調査期間 平成2年9月22日
面積 54.11㎡ (247㎡)
調査担当者 高村博文



東千石平遺跡群1位置図 (1:10,000)

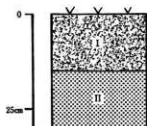
経過と立地

東千石平遺跡群は、佐久市大字瀬戸地籍に所在し、標高669～671mを測る。遺跡の南方には、志賀川が北方からはほぼ直角に北流から西流し、滑津川と合流する地点に位置し、志賀川により形成された第2河岸段丘上に展開している。その北方には昭和40年度発掘調査を実施した深堀遺跡が存在するが、本遺跡群内の調査ははじめてであり、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると古墳時代から中世の遺構の存在が予想される。

今回、土屋今朝美氏が行う住宅建設により立会い調査を実施することとなった。

調査結果

基礎部分の掘削は幅約100cm、深さ30cm内外で行われた。確認の結果、表土(1層)を約15cm程取り除くとII層の黒褐色土が検出され、この層から数片の土師器が出土した。今回の掘削では、遺構の検出はみられなかったものの、付近には古墳時代から平安時代の遺構の存在する可能性が非常に高い。



- 第I層 暗褐色土 耕作土。
(10YR%)
- 第II層 黒褐色土 粘質有り。赤褐色粒子を多少
(10YR%) 含む。土師器を含む。土器包
含層の可能性高い。

東千石平遺跡群基本土層模式図



遺跡近景 (西方より)



掘明全景 (南西より)

(3) 岩村田遺跡群 1

所在地 佐久市大字岩村田字黒地
蔵161-1

調査原因者 井出雅男

開発事業名 貸し店舗・駐車場建設

調査期間 平成2年10月15日

面積 158.4㎡ (1,099㎡)

調査担当者 小山岳夫

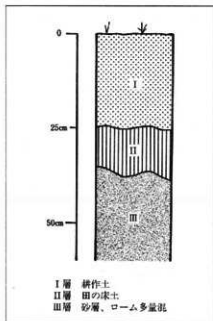


岩村田遺跡群1位置図 (1:10,000)

経過と立地

岩村田遺跡群は浅間山麓南斜面に幾筋も発達する細長い「田切り」台地上に立地する。ここは弥生から平安時代においては佐久平有数の集落遺跡を、また、東側には鎌倉から安土・桃山時代にかけて北佐久に勢力をふるった大井宗家が居とした大井城跡を、更に現代では商業的な繁華街を内包する等、古代から現代に至るまで佐久平で最も人工の多い中核的な役割を担った土地でもある。

今回、井出雅男氏が行う貸し店舗・駐車場建設に伴う立会い調査地点は標高731m内外で、当遺跡群を縦貫する浅い谷部分に当たる。



基本土層模式図

調査結果

貸し店舗建設が行われる敷地内に長さ15m、幅1.5m、深さ30~40cmの試掘溝を3条掘削し遺構の存否の確認を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。なお、調査地点の基準層序は右上図の通りである。

(4) 番屋前遺跡群 1

所在地 佐久市大字猿久保字番屋
前900-1

調査原因者 荻原廣太郎

開発事業名 共同住宅・駐車場建設

調査期間 平成2年10月22日

面積 501㎡ (1,174㎡)

調査担当者 小山岳夫



番屋前遺跡群1位置図 (1:10,000)

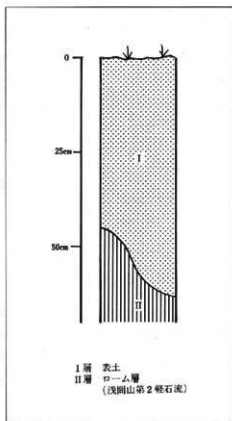
経過と立地

番屋前遺跡群は湯川左岸の第3段丘上に位置し北側直下の第2段丘面には猿久保屋敷遺跡がある。弥生・平安時代の遺物の散布地とされるが、過去の調査例が少なく、実態究明は今後の調査進行に委ねられるところが多い。

今回、荻原廣太郎氏が行う、共同住宅・駐車場建設に伴う立会い調査地点は標高695m内外である。

調査結果

共同住宅建設地、基礎工事部分に長さ40m、幅120cmの試掘溝を東西方向に二本掘削する。北部試掘溝は深さ45cm内外、南部試掘溝は65cmで、浅間山の軽石層に達する。確認の結果、遺構・遺物とも検出されなかった。



基本土層模式図

(5) 番屋前遺跡群 2

所在地 佐久市大字中込字東大塚
手前3174-1外
調査原因者 柳沢昇
開発事業名 共同住宅・駐車場建設
調査期間 平成2年11月8日
面積 491.9㎡ (801㎡)
調査担当者 小山岳夫



番屋前遺跡群 2 位置図 (1 : 10,000)

経過と立地

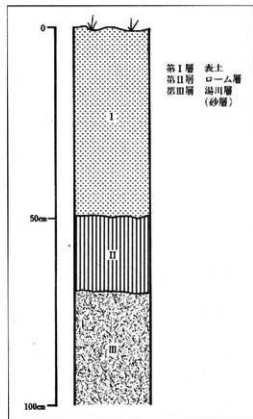
立地については番屋前遺跡群 1 と同じ。

今回、柳沢昇氏が行う、共同住宅・駐車場建設にともなう立会い調査地点は標高691m内外である。

調査結果

建物建設地の基礎部分 5カ所に関して 3m×3m のマス掘りを行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

基準層序は右図の通りである。



基本土層模式図



遺跡近景（東方より）



土層断面

(6) 下信濃石遺跡 1

所在地 佐久市大字岩村田字仁王
前337外
調査原因者 石井商会株式会社
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成2年10月24日
面積 1,174㎡
調査担当者 小山岳夫



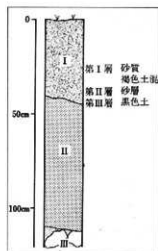
下信濃石遺跡1位置図 (1:10,000)

経過と立地

下信濃石遺跡は湯川右岸の第2段丘上に立地し、西側直上には弥生から平安時代集落の一大密集地である上の城遺跡群が存在する。平安時代遺物の包蔵地とされるが、実態は不明確である。今回、石井商会が行う宅地造成にともなう立会い調査地点は第2段丘面の基部に当たり、標高は690m内外である。

調査結果

開発地1,174㎡の内、台地直下、段丘面基部の削平地区に関して、幅2.5m、深さ1.3m内外の試掘溝を東西方向に3本掘削する。地表から1.1mまでは砂層（I・II層）、以下は径20cm内外の黒色火山弾を多量に含む黒色土（III層）。従って、当地は火山降下時に湿地であった可能性が大である。その後は湯川の氾濫等により、砂の流入が著しかったと推定される。遺構・遺物は検出されなかった。



基本土層模式図

(7) 西近津遺跡群 1

所在地 佐久市大字長土呂字西近
津1751-11
調査原因者 川手歳和
開発事業名 個人住宅建設
調査期間 平成2年11月8日
面積 61.43㎡ (206㎡)
調査担当者 小山岳夫



西近津遺跡群 1 位置図 (1:10,000)

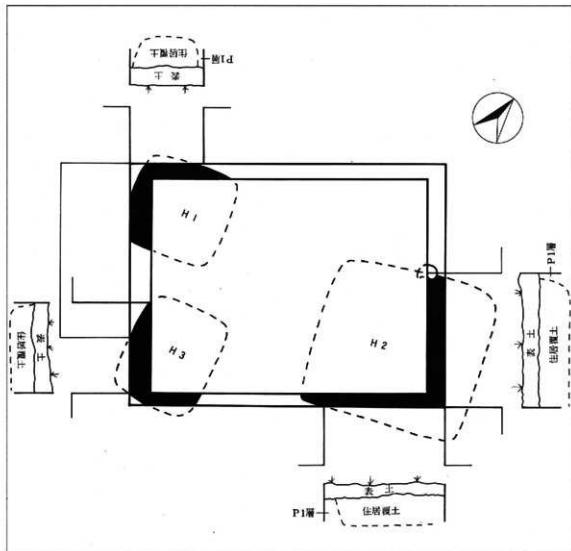
経過と立地

西近津遺跡群は浅間山麓南斜面に幾筋も発達する細長い「田切り」台地上に立地する。ここは弥生から平安時代において佐久平有数の集落遺跡を内包することが市内遺跡詳細分布調査や過去の発掘調査で知られている。

今回、川手歳和氏が行う、住宅建設にともなう立会い調査地点は、標高710m内外である。

調査結果

建物基礎部分の全周 (1,007×643cm) を幅100cmで80cm内外掘削。確認の結果、少なくとも3棟の竪穴住居址が確認される。遺構確認面より10cm内外の破壊が危惧されるものの、大方は現状保護される状況にあると判断されるため、範囲確認・記録を行って、本調査は後世に託すことにする。この地点、及び周辺は大規模な集落址が内包されていることは白明であり、今後、重点的に保護処置を行う体制を整備する必要性を強く感じる。なお、微量の出土遺物からではあるが、図示したH1に関しては奈良・平安時代、H2は古墳時代後期、H3は弥生時代の竪穴住居址と考えられる。



西近津遺跡群1調査全体略図 (1 : 100)



掘削近景 (東方より)



H2 検出状況 (東方より)

(8) 白山遺跡群 1

所在地 佐久市大字今井字下原
758
調査原因者 信濃ペンディング株式会
社
開発事業名 事務所兼倉庫建設
調査期間 平成2年11月21日
面積 275.4㎡ (763㎡)
調査担当者 高村博文



白山遺跡群 1 位置図 (1 : 10,000)

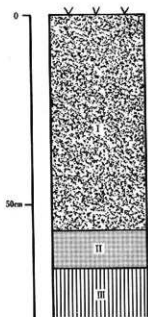
経過と立地

白山遺跡群は佐久市大字今井地籍に所在し、標高648～670m付近を測る。遺跡群は千曲川・湯川・滑津川に分断された中込原台地の最西端に位置し、南方の断崖は千曲川により形成された第1河岸段丘上から比較差20数mを測る。遺跡の東方には昭和49年度発掘調査を実施した今井西原遺跡が存在するが、本遺跡内での調査ははじめてであり、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文時代から平安時代の遺構の存在が予想される。

今回、信濃ペンディング株式会社が行う事務所兼倉庫の建設により立会い調査を実施することとなった。

調査結果

基礎部分の掘削は、深さ67cm内外で行われた。表土 (I層) を57cm程取り除くとローム層が現れ、このローム層は二層に分層できる。遺構が検出されるとすればI層 (表土) 下、II層上面と考えられるが、遺構・遺物の検出はみられなかった。



- 第I層 黒褐色土 耕作土。
(10YR%)
- 第II層 灰褐色土 小礫を含む砂礫質層。
(10YR%)
- 第III層 暗褐色土 砂質で茶褐色土ブロックを
(7.5YR%) 含む。

白山遺跡群 1 基本土層模式図



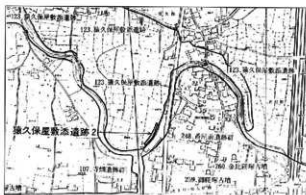
遺跡近景 (北方より)



掘削近景 (西方より)

(9) 猿久保屋敷添遺跡 2

所在地 佐久市大字猿久保屋敷
添454-1 外
調査原因者 株式会社朝倉・佐久電気
・金井ふみ子
開発事業名 資材置き場・擁壁建設
調査期間 平成2年12月8日
面積 1,048㎡
調査担当者 高村博文



猿久保屋敷添遺跡 2 位置図 (1:10,000)

経過と立地

猿久保屋敷添遺跡の立地については、猿久保屋敷添遺跡1と同じである。

今回、株式会社朝倉外が行う資材置き場・擁壁建設にともない、湯川左岸第3段丘直下、第2段丘上を埋め土して開発することになり、立会い調査を実施することになった。

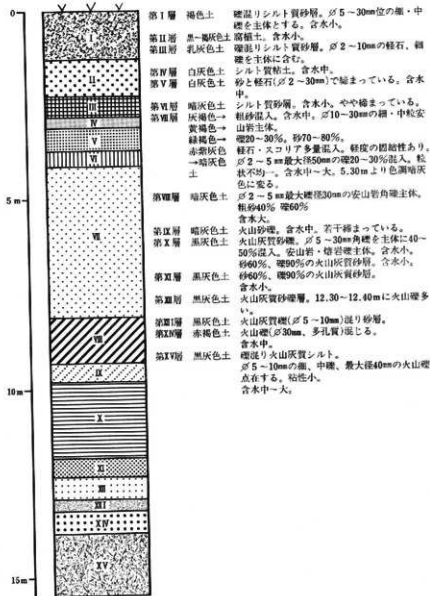
調査結果

擁壁を建設するにあたり、株式会社朝倉は、地質調査を関東地質株式会社に依頼して、ボーリング調査を実施した。朝倉社長朝倉輝代司氏の好意により貴重なその地質調査結果をお借りして基本土層模式図に示した。

調査結果によると、上部4m以浅は河川堆積物の砂・粘土を、4m以深には浅間軽石流の礫混じり火山砂を主とする火山砕屑物に占められており、地下水位面は地表下1.3mに認められている。



遺跡近景 (西北より)



猿久保原敷添遺跡2基本土層模式図

(10) 芋の原遺跡群 1

所在地 佐久市大字横根字十二平
1172-4

調査原因者 渡辺圭司

開発事業名 個人住宅建設

調査期間 平成2年12月9日

面積 117.59㎡ (979㎡)

調査担当者 高村博文



芋の原遺跡群1位置図 (1:10,000)

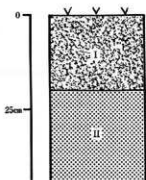
経過と立地

芋の原遺跡群は、佐久市大字横根地籍に所在し、標高735～739mを測る。遺跡の北方には湯川が西流し、遺跡群を囲むように流路を南方に変えており、湯川左岸の第2河岸段丘上に位置している。遺跡群と湯川の対面には、昭和63年度・平成元年度発掘調査を実施した金井城跡が存在するが、本遺跡群内の調査ははじめてで、佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると縄文時代から平安時代の遺構の存在が予想される。

今回、渡辺圭司氏が行う住宅建設により立会い調査を実施することとなった。

調査結果

基礎部分の掘削は、幅約100cm、深さ54cm内外で行われた。確認の結果、表土約20cmを取り除くとII層の黒褐色土層が検出され、土師器の小片が出土した。今回の掘削では、遺構の検出はみられなかったものの、付近には、古墳時代から平安時代の遺構の存在する可能性が高い。



- 第I層 暗褐色土 耕作土。
(10YR 5/6)
- 第II層 黒色土 小礫を含み、ふかふかしている。
(10YR 2/1)

宇の原遺跡群基本土層模式図



遺跡近景（南東より）



掘削全景（東方より）

(11) 芝宮遺跡群 2

所在地 佐久市大字長土呂字上芝
宮771-6
調査原因者 森泉英
開発事業名 個人住宅建設
調査期間 平成2年12月14日
面積 74.97㎡ (330㎡)
調査担当者 翠川奉弘



芝宮遺跡群 2 位置図 (1 : 10,000)

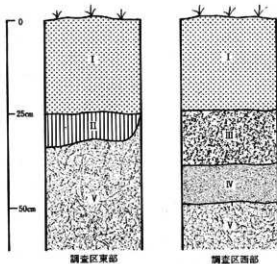
経過と立地

芝宮遺跡群 2 は、佐久市大字長土呂に所在し、標高740m内外を測る。この地帯は、佐久市北半部の地表を形成している火山灰砂軽石 (P1) が堆積しているため、水の浸食に弱く火山山麓特有な“田切り地形”が発達している。過去、遺跡群内では三回 (昭和54・55・57年度) の調査が実施されているが、遺構は検出されず、縄文から平安時代の断片的な遺物が出土している。

今回、森泉英氏による住宅建設にともない、立会い調査を実施して遺跡の確認をする必要が生じた。

調査結果

宅地造成は、東方から西方へ傾斜する現況地形の東南部を削平して水平面を構築し、基礎部分に深さ70cmまでトレンチをいれる方法が用いられたが、この掘削範囲内においては、遺構・遺物は確認されなかった。当地地の対岸には700棟もの住居址が確認された聖原遺跡が存在する。外見上さしたる差異の無いこの様な両台地の利用状況の相違は、古代人の生活様式ならびに当地地の古環境を知る上で興味深く、今回の調査は重要な意義をもつものであった。



- 第I層 黒褐色(10YR%)砂質土層、細地耕作土。
 粒径5mm内外の砂利を含む。
- 第II層 暗褐色(10YR%)砂質土層。I・V層の掘
 拌土。粒径2~5mm大のバミスローム粉末
 を含む。
- 第III層 黒色(10YR^{1.5})地味細かい砂質土層。バ
 ミス粉末を含む。
- 第IV層 暗褐色(10YR%)砂質土層。粒径10mm内外の
 バミスローム粉末を含む。漸移層。
- 第V層 明黄褐色(10YR%)砂質土層。粒径3~10mm
 大のバミスを含む。ローム層(P1)。聖原
 台地のP1に比べ砂質性に富む。

芝宮遺跡群2基本土層模式図



遺跡遠景 (南方より)



遺跡近景 (東方より)



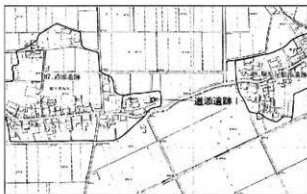
基礎工事作業状況 (東方より)



基礎掘り下げ終了状況 (東方より)

(12) 道添遺跡 1

所在地 佐久市大字塚原字道裏
2384-1
調査原因者 神岡信夫
開発事業名 個人住宅建設
調査期間 平成2年12月18・19日
面積 48.13㎡ (115㎡)
調査担当者 翠川泰弘



道添遺跡 1 位置図 (1:10,000)

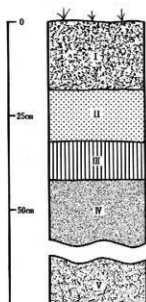
経過と立地

道添遺跡は、佐久市大字塚原に所在する。地質学的成因により二分される南北佐久平の北部に位置し、浅間山麓末端の標高675m内外を測る台地上に立地している。西方には狐塚古墳が存在し、また、遺跡の中央部を旧中山道が通過すると共に周囲には古寺院が散見される等、歴史的な由緒が薫ることも見逃せない。

今回、神岡信夫氏による住宅建設に伴い、立会い調査を実施して埋蔵文化財の確認をする必要が生じた。

調査結果

基礎の掘り下げは、現況地表より約40cmの深さまで行われたが、遺構・遺物は皆無であった。しかしながら、既済のは場整備事業による掘削が比較的浅くローム層まで到達していない箇所が看取されたこと、ならびにローム層上に人工的攪拌の施されていない自然堆積土が確認されたことは、今後の調査に極めて重要な示唆を与えてくれたものと考えられる。



- 第I層 黄灰色(2.5Y₅)粘質土層。水田耕作土。砂粒を少量含む。
- 第II層 暗褐色(7.5YR₅)粘質土層。水田床土(浴槽層)。鉄分・砂粒を多量に含む。
- 第III層 黒褐色(10YR₅)粘質土層。φ20mm内外の礫、φ5mm内外のバミスを含む。
- 第IV層 灰黄褐色(10YR₅)粘質土層。砂粒・φ5mm内外のバミス・φ3mm内外の鉄分粉子を含む。調査区北部から中央部にかけてのみ存在する。
- 第V層 灰褐色(2.5Y₅)砂質土層。ローム層(P1)。

道添遺跡基本土層模式図



遺跡遠景 (南方より)



遺跡近景 (北方より)



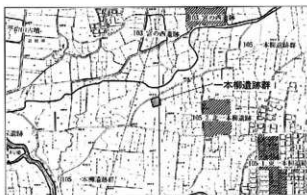
基本土層 (調査区北端)



基礎掘り下げ終了状況 (南方より)

(13) 一本柳遺跡群 1

所在地 佐久市大字岩村田字上種
田1820-4
調査原因者 籠谷恒男
開発事業名 個人住宅建設
調査期間 平成3年1月8日
面積 70.38㎡ (232㎡)
調査担当者 三石栄一



一本柳遺跡群1位置図(1:10,000)

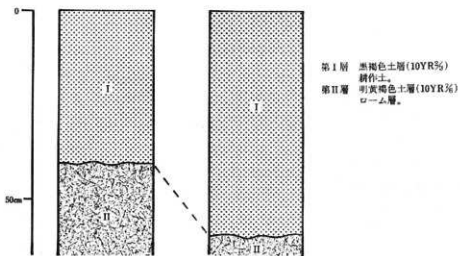
経過と立地

一本柳遺跡群は佐久市大字岩村田地籍に所在し、標高693m付近を測る。立地的には、本遺跡の南方、西方に向かって蛇行する湯川右岸の台地上に位置している。本遺跡群内における発掘調査は、昭和43年度東一本柳遺跡、昭和47年度北一本柳遺跡、昭和46年度東一本柳古墳がおこなわれ、弥生時代から平安時代の住居址が検出された。また、西方に隣接する北西ノ久保遺跡では昭和57・60年度に発掘調査が実施され、弥生時代中期の住居址を中心とした多数の遺構が検出された。

今回、籠谷恒男氏が行う住宅建設にともない立会い調査を実施することとなった。

調査結果

立会い調査の際に行われた基礎工事は、幅約50cm、表土から60cmの深さで掘り下げを行い、その結果、表土I層は東端部で約40cmを測り、西方に行くにしたがって徐々に深くなり、西端部で約60cmを測り、一部ローム面まで達しない部分もあった。調査の結果、検出されたローム層上においては遺構の存在は認められず、遺物の出土も見られなかった。しかし付近の発掘調査例を考慮すると今回の調査区周辺には弥生から平安時代の遺構が多数存在しているものと考えられる。



一本柳遺跡群1基本土層模式図



遺跡近景 (南方より)



遺跡近景 (北方より)



掘削近景 (西方より)



掘削近景 (南方より)

(14) 寺畑遺跡群 1

所在地 佐久市大字根々井寺畑
385-2
調査原因者 森泉辰男
開発事業名 個人住宅建設
調査期間 平成3年1月9日
面積 79.33㎡ (724㎡)
調査担当者 助川朋広



寺畑遺跡群1位置図 (1:10,000)

経過と立地

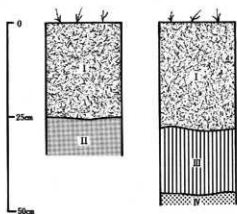
寺畑遺跡群1は佐久市大字根々井地籍に位置し、標高約685mを測る。立地的には、本遺跡の北方に、西方に向かって蛇行する湯川の第2段丘上に位置している。昭和57・60年度に調査した弥生時代の大集落址の北西ノ久保遺跡が対岸に位置している。

遺跡の内容については、佐久市遺跡詳細分布調査報告書を参照すると弥生～平安時代の遺構の存在が予想され、近接した宮の上遺跡での昭和62・63年度の調査では、奈良・平安時代の住居址が検出されており同様な遺跡のあり方が予想された。

今回、森泉辰男氏が行う住宅建設にともない、立会い調査を実施することとなった。

調査結果

立会い調査の際に行われた基礎工事は、幅約80cm、表土から35cmの深さで掘り下げを実施した結果、表土I層の約25cm下面にローム層が確認され、遺構・遺物は確認できなかった。II・III層はローム漸移層・ローム層でその下面に明黄褐色砂礫層が確認され、宮の上遺跡同様、湯川の影響を多分に受けていた。



- 第I層 暗褐色土層(10YR%)耕作土。
 第II層 濃い・黄褐色土層(10YR%)パミス(径3mm)僅少含。ローム漸移層。
 第III層 明黄褐色土層(10YR%)ローム層。パミス(径3mm)少含。礫(径5mm)少含。
 第IV層 明黄褐色土層(10YR%)砂礫層。礫(径5mm~2cm)含。

寺畑遺跡群1基本土層模式図



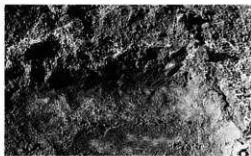
遺跡近景 (南方より)



掘削近景 (東方より)



掘削近景 (西方より)



土層断面

(15) 浅井城跡 1

所在地 佐久市大字新子田字丑ケ
久保832-1

調査原因者 中野 運

開発事業名 資材倉庫建設

調査期間 平成3年1月10日

面積 62.21㎡ (254㎡)

調査担当者 竹原 学



浅井城跡 1 位置図 (1 : 10,000)

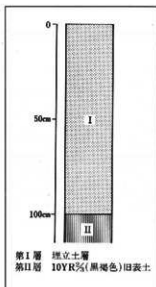
経過と立地

浅井城跡は、佐久市大字新子田地籍に所在し、標高698～714m付近を測る。立地的には香坂川右岸の段丘末端にのる小丘陵上から段丘面に位置する。佐久市遺跡詳細分布調査報告書によると、中世城郭の伝承地とされ、また、戸坂遺跡群(弥生～中世)にも含まれている。

今回、中野運氏が行う資材倉庫建設にともない、立会い調査を実施することとなった。

調査結果

立会い調査の結果、当該地は田切り地形(堀?)の中に位置しており、現地表面下1mまで近年の埋め立て層がみられた。この面で旧表土(黒褐色)が確認されたが、工事による掘削はこれ以下に及んでいないため、遺構・遺物は検出されなかった。



基本土層模式図



道跡全景（南方より）



土層断面

長野県佐久市

市内遺跡発掘調査報告書1990

1991年3月

編集・発行者 佐久市教育委員会

印刷所 信毎書籍印刷株式会社
